

あかるく かしこく たくましく

令和6年1月31日 No. 45 文責：校長 佐野紳二

2月3日は節分です 鬼について調べてみました

今週末の土曜日、2月3日は節分、日曜日の4日は立春と徐々に春が近づいています。(まだまだ「春」というにはかなり寒いですが…)「節分」と言えばやはり「豆まき」ということで、今回は豆まきの主役?でもある鬼について調べてみました。大人気の漫画「鬼滅の刃」の例を挙げるまでもなく、昔から鬼は「悪いものの象徴」のように扱われてきましたが、実際のところ「鬼」ってどんなものなのでしょうか。

まずは例によって、国語辞典(広辞苑)で鬼について調べてみました。

(「隠(おぬ)」で、姿が見えない意という)

- ①天つ神に対して、地上などの悪神・邪神。
- ②伝説上の山男、巨人や異種族の者。
- ③死者の霊魂。亡霊。
- ④恐ろしい形をして人にたたりをする怪物。もののけ。
- ⑤想像上の怪物。仏教の影響で餓鬼、地獄の青鬼・赤鬼があり、美男・美女に化け、音楽・双六・詩歌に優れたものとして人間世界に現れる。のちに陰陽道の影響で、人身に牛の角や虎の牙を持ち、裸で虎の皮のふんどしをしめた形をとる。怪力で性質は荒い。



【広辞苑より】

国語辞典で見ると、おおよそ私たちが持っているようなイメージ(悪い・怖い・化物・強い)に沿ったことが書かれていました。しかし、地方によっては鬼を「強い守護神」というイメージでとらえているところもあり、一つの観念としてまとめられない感じがします。

鬼は、恐ろしいもの、力強いもの、超人的なものの象徴とされています。人に危害を加えたり、人を食べたりするなど「悪」の存在であることが多いのですが、人を助けたり幸せをもたらす「善」や、崇められる「神」など、多様な捉え方があります。

それらの背景にあるのが、本来、鬼は「死者の霊」であるという考え方です。言い換えれば、人間が鬼になるということになります。人の死去を「鬼籍に入る(きせきにいる)」というのはその表れで、鬼を祖霊や神と結びつけるようにもなりました。そして、鬼には超人的な能力があり、人間の禍福(かふく。わざわいと幸せ)を支配する存在だと捉えるようになりました。超人的なものに対するおそれや憧れから、鬼は多種多様な描かれ方をするようになったと考えられています。

【All About より】

また、仏教の考え方も鬼の在り方に影響を与えています。

(とは言え、「鬼」はどうかや日本古来の妖怪のようです。他の国の言葉に訳してみるとほとんどが「悪魔(Demon)」となり、鬼よりも広義の捉え方になるようです。「鬼滅の刃」の英語タイトルも「Demon slayer」ですね。)



学校通信 No.45 は書き初め大会の入賞者と3学期の代表委員を紹介しました。多くの児童の名前が書いてあるので、ホームページへの掲載は控えます。代わりに、間もなく節分なので、ホームページ掲載号には鬼の話を書かせていただきました。